

【様式】 令和7年度 奥越明成高等学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 学習支援	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な学習習慣を確立し、学習意欲を向上させることができるよう支援する。 基礎学力や専門知識・技能が向上するように個々の能力に応じた支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> いずれの指数も目標指数は上回り、取組指数は昨年比マイナス1ポイント(94.8%)、成果指数は同プラス0.8ポイント(94.5%)であった。今年度の成果指数は3学年の差はなく、継続的かつ適切な指導・支援によるものと考えられる。 これまで同様3つの指数ともに目標指数は上回っている。特に満足度指数においては昨年比プラス6.2ポイントであり、3年生が昨年度(2年次)より大幅にアップしていることが要因である。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでどおり継続することと、改善すべきことを各教員が明確にして、生徒の興味関心が高まるような情報収集、DXの推進を心がけ、生徒の学習意欲の向上につなげる。 (1学期末実施)学習状況調査の2か年の結果からも、3年生は昨年度(2年次)より「学校生活満足度」、「将来の目標」、「卒業後の進路志望」が上昇していることとの関係性はあると考える。これまでどおり、学習支援を柱にして学校全体で支援していることを発信していく。
2 生徒支援	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員の共通理解のもと継続的な指導を行い正しい身なりを身に付けることができるよう支援する。 部活動や学校行事の充実を図ることができるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の取組指数、生徒の成果指数、保護者の満足度指数ともに目標指数を上回った。教員の取組指数は他の指数と比較すると低く、容儀規定について全教員の共通理解を図り日々の支援が行われる必要がある。 生徒、保護者、教員ともに目標指数を上回った。いずれも昨年の指数を大きく上回っており、部活動や学校行事など生徒の集団活動が意義深く望ましいものとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒心得や毎月の全校集会などとおして容儀規定について周知徹底を図り、教職員の共通理解のもと、日々の声かけや支援を継続して行ってもらえるよう働きかけを行っていく。 各行事について、生徒が主体的に計画・実行できるよう肯定的な支援を行う。部活動においては、活動状況や成績などを保護者会やPTA新聞などで広報し、部活動の活性化のための働きかけを行っていく。
3 進路支援	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な情報発信と各種適性検査や進路集会、ガイダンス、職場見学を行い、自分の将来を考えられるよう支援する。 面接指導や模擬試験、進学・小論文補習を通して希望進路を実現できるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員、生徒、保護者とも目標指数を上回ることができた。特に保護者の満足度指数が昨年度に比べ高くなった。インターンシップや進路ガイダンス、進路説明会などとおして進路への関心を高め、家庭で話し合う機会につながったと推測される。 進学者は第一希望の学校に進学を決めた。就職希望者の多くは第一希望の事業所に内定し、生徒、保護者ともに目標指数を達成できた。しかし、最終の進路希望調査後に希望を変更する生徒もおり一部混乱が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に情報を発信し、進路に向き合う機会を増やし、学校、家庭などあらゆる場面で自分の将来を考えさせる環境を築いていく。 インターネットを活用した求人情報を低学年から閲覧し、家庭で進路に向き合う機会を増やしていく。 引き続き全教職員協働による指導体制を確立していく。進路決定に際し迷いが見られる生徒には、より細やかな支援を行う。 多様化する個々の適性、進路志望に応じて、粘り強く指導を行っていく。
4 保健・ 安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察やいじめアンケートによって、生徒自身が心身の健康状態を把握し、健康で安全な生活を送る態度を育成できるよう支援する。 清掃活動に主体的に取り組み、学習環境の美化を図ることができるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康で安全な生活を送る態度の育成は、生徒、保護者、教員すべてが目標以上の成果を得た。生徒は昨年度より若干減少した。保護者の指数は昨年度より増加しており、85%を超えた。生徒自身はもちろん、家庭で心身の健康管理を意識した生活を送ることができるよう、健康への関心を高める情報発信を引き続き行う必要がある。 清掃活動への取組は、生徒、教員ともに目標指数以上の成果を得たが、教職員の支援指数が思いのほか低く、問題を調査し検討したい。また、清掃の丁寧さなどの課題も検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察やいじめチェックを継続するとともに、保健だよりなどで生徒・保護者の健康への意識を高める。また、緊急メールやHPなどを通じて保護者に情報を迅速に伝える。保健だよりなどHPへの掲載は今後も継続する。 検診後の早期受診の必要のある生徒・保護者に治療勧告を複数回行っているが、今後も継続する。 毎日生徒による感染症対策や熱中症対策等の放送を行うことで、健康管理への生徒の意識を育てる一助にする。 相談や保健活動について外部の関係機関等と連携を図ることや個に応じた地道な手立てを継続する。 生徒による清掃時間の放送とおして時間どおり清掃活動に取り組むことで、生徒が学習環境の美化に主体的に取り組む意識や態度を育てる。
5 図書支援	<ul style="list-style-type: none"> 広報活動や朝読書、授業をとおして、生徒が図書館などを利用し、読書意欲が高まるように支援する。 PTA活動の情報を発信し、PTA行事への参加を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の読書への関心は目標指数に達した。しかし、保護者の生徒の読書意欲向上の受け止めは、低い指数となった。読書への意欲を高めることが課題である。 PTAの活動に関心を持つことができたかは、目標指数に達した。 	<ul style="list-style-type: none"> 蔵書の充実、図書館利用の促進を図る。朝読書や、図書館だよりをとおして生徒の読書意欲を高める。 PTAだよりを利用し、PTAの活動を広報する。また、学校のHPや一斉メールなどを利用し、保護者のPTA活動への参加を促す。

【様式】 令和7年度 奥越明成高等学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
6 専門工業系 支援	<p>・実習や課題研究でのものづくりをとおして、工業に関する専門知識の習得や技術の向上を図ることができるよう支援する。</p> <p>・実習や課題研究でのものづくりにおいて、機械や道具を扱う際、常に安全に配慮し主体的に作業する態度が身に付けられるよう支援する。</p>	<p>・取組指標(100%)、成果指標(99%)、満足度指標(90%)のいずれも目標指数を上回った。特に満足度指数は昨年度以上に目標指数を大きく上回り、こどもの成長を感じている保護者の割合が増えたと言える。しかし、「あまりできなかった」と答える生徒が1名(1%)いるため、支援の方法や内容について今後も工夫をしていく。</p> <p>・取組指標、成果指標のどちらも、「だいたいできた」以上の割合が100%となった。実習や課題研究で作業を行う際、安全に配慮し主体的に作業する態度について、日々支援している結果が実を結んでいるといえる。しかし、慣れにより雑な操作を行うことは大怪我につながる可能性があるため、引き続き安全確認を促す指導を行う。</p>	<p>・今後も工業に関する専門知識の習得や技術の向上が図れるよう、生徒の理解度を把握し、より小刻みな支援を行う。そのために、教員間の情報交換を積極的にを行い、連携をさらに深めていく。さらに、保護者にこども達の成長を感じてもらえるよう、生徒達の学習の成果を今後も本校のPR材料としていく。</p> <p>・ものづくりに対して、生徒ができる場所を少しずつ伸ばすことで興味関心を持たせ主体的に取り組む態度を身に付けさせるとともに、常に安全に配慮した作業態度の向上が図れるよう「安全に配慮したこと」について折あるごとにふり返りの時間を設け、かつ協働作業により生徒個々への支援をさらに増やしていく。</p>
7 専門商業系 支援	<p>・授業で習得したソフトウェア活用能力を、販売実習や地域イベントなどで実践的に活用させ、応用力を身に付けさせるよう支援する。</p> <p>・学校内外での様々な学習活動において、適切な言葉遣いやマナーなどの必要性を説明し、職業人としての意識を高めさせるよう支援する。</p>	<p>・成果指数の達成率は1、2年に加え3年も100%となった。積極的な地域連携活動の取り組み、生徒発表の機会や主体的活動の増加によって、学習成果を発揮する場が増え、学習意欲が向上したと思われる。今後も生徒主体による実践的な活動を取り入れていくことが重要である。</p> <p>・昨年度比で成果指数は1.8ポイント、満足度指数は0.5ポイントの減少となったが、高い値を維持している。通常授業に加え、校外学習や外部講師授業で多様な実務家との交流が良い経験となった。特に活動の中心である2年生、3年生は、「よくできた」と回答している割合が高い。1年生が主体となる活動がないのが課題である。</p>	<p>・身に付けたソフトウェア活用能力を発揮できるよう、地域との連携活動など、実践的な学習機会を積極的に取り入れていきたい。また、個別指導を強化し、個々のスキルを上げ、全体としての活用能力を向上させる。</p> <p>・様々な学習活動における支援を継続していく。また、ビジネスマナーを効果的に身に付けさせるために生徒主体の校外活動を積極的に取り入れていきたい。また、早い時期から具体的な進路目標を考えさせ、言葉遣いやマナーの必要性を理解させる。</p>
8 専門家庭系 支援	<p>・生徒自ら学習目標を設定し、学習意欲を高め、知識や技術が向上するように支援する。</p> <p>・授業や実習において手順を理解し、適切に行動し、実生活での課題解決ができるように支援する。</p>	<p>・課題や実習の内容を理解し、知識や技術を向上させる取り組みは、生徒、保護者ともに目標指数以上の成果を得ることができた。「あまりできなかった」と回答する生徒が1年生で見られた。</p> <p>・授業や実習内容を理解し適切に行動し、身に付けた知識や技術を実生活での問題解決に生かす取り組みも生徒、保護者ともに目標指数以上の成果を得ることができた。</p>	<p>・短期の目標や個人の力に合わせた目標を設定させ、段階を経ながら知識や技術が定着するよう支援する。</p> <p>・学んだことを生活に生かせるよう身近な活用例やアレンジの仕方を紹介したり、家庭での課題を継続して設定したりする。</p>
9 専門福祉系 支援	<p>・校内での学習活動だけでなく、介護実習をはじめとする校外での学習活動をおと、福祉に関する知識や技術が向上するように支援する。</p> <p>・介護実習やボランティア活動時だけでなく、日々の学校生活の様々な場面でも、他者に対して優しさや思いやりを持って接する態度を身に付けることができるように支援する。</p>	<p>・福祉に関する知識や技術の向上について、生徒、保護者ともに目標指数を上回った。授業に加え実習も知識や技術の向上につながったと思われる。一方、学年が上がるにつれ学習内容が難しくなることから、「だいたいできる」と回答する生徒が増えているとも考えられる。</p> <p>・他者に対して優しさや思いやりをもって接する態度について、生徒、保護者ともに目標指数を上回った。1年生は全員が「よくできた」と回答している反面、2、3年生は60%台となっており、行動に十分表れないこともあると思われる。</p>	<p>・引き続き、授業や実習等をおとし、知識と実践を結びつけた学習を行っていく。また、生徒の理解度に応じた個別支援も継続していく。</p> <p>・介護実習やボランティア活動に限らず、日々の生活においても他者に対して優しさや思いやりのある行動をとることができるよう今後も支援していく。</p>
10 多忙化解消	<p>・教育DXをいっそう進め、文書量の削減や連絡の効率化を図る。</p> <p>・会議や委員会の見直しと精選を進めるとともに時間短縮を図る。</p>	<p>・校内支援システムやICT機器の活用による事務処理時間の短縮が期待できるが、その効果以上に新システム導入による戸惑いが見られた。</p> <p>・会議や委員会開催日の調整や事前の情報共有をシステム上で行うことで、会議時間を短縮できた。</p>	<p>・新しい校内支援システムの更なる有効活用を図る。</p> <p>・ICT機器を授業および学校行事等で効果的な活用を推進する。</p> <p>・会議や委員会開催前のシステムを用いた情報共有をさらに進め、有意義な協議時間の確保に努める。</p>